

Lead

All roads lead to the future リード



コミュニケーションペーパー
2015 Winter 冬号

¥0
TAKE FREE

特集

子どもたちが学ぶ菓子工房完成／ホッコスweets

発達障害児の雇用に向けて

高知大学の研究成果を社会へ

高知大学発ベンチャー 認定制度

のぞいてみよう高知大学の授業!!

Labo通信

高知の海から 魚の新種を発見せよ!

まなびの時間

「日本語教師」とは何か?
その全体像を学ぶ

Action! 地域×高知大学

エコチル調査7000組の参加者集まる!

ぼくらのキャンパスライフ

言葉のチカラをキャンパスに、地域に届けたい!

高知大学ニュース

ドイツ菓子工房／ホッコスweets

高知大学で開催するイベントをご紹介します。

イベントインフォメーション

Event information 2015 Winter 冬号



高知大学 卒業制作展

2/17(火)～22(日) 入場無料

教育学部生涯教育課程芸術文化コース
(美術)の卒業制作展です。本展覧会は、
今年度で第14回をむかえます。
西洋画・日本画・デザイン・彫刻の各専
攻分野から卒業生各自の研究テーマに
沿って制作された作品が出展されます。
ぜひご覧ください。

時間 10:00～18:00(最終日は17:00まで)

場所 高知市文化プラザカルポート7F 第5展示室



平成26・27年度 式典のお知らせ

平成26年度高知大学
大学院修了式
学部卒業式

場所 高知県立県民文化ホール



平成27年度高知大学
大学院・
学部入学式

場所 高知県立県民文化ホール



平成27年度 入試案内

	募 集	出願期間	試験日	合格発表	入学手続期間
推薦入試Ⅱ	教育学部学校教育教員養成課程 幼児教育コース／教育科学コース・教科教育コース	1/20(火)～23(金)	2/7(土)	2/11(水)	2/12(木)～17(火)
	農学部		2/1(日)		
AO入試Ⅱ	教育学部学校教育教員養成課程 (科学技術教育コース)	1/20(火)～23(金)	2/7(土)	2/11(水)	2/12(木)～17(火)
	土佐さきがけプログラム (グリーンサイエンス人材育成コース) 土佐さきがけプログラム (生命・環境人材育成コース)		2/1(日)		
一般入試 前期日程	全学部	1/26(月)～2/4(水)	2/25(水)・26(木)	3/7(土)	3/8(日)～15(日)
一般入試 後期日程	全学部 (地域協働学部・医学部医学科を除く)	1/26(月)～2/4(水)	3/12(木)	3/23(月)	3/24(火)～27(金)

・入試に関するお問い合わせ先(ご意見・ご質問にお応えします。)

学務部入試課

TEL.088-844-8153

E-mail nys-web@kochi-u.ac.jp

・入試に関する最新情報(随時更新中)

<http://www.kochi-u.ac.jp/nyusi/index.html>

・大学案内・選抜要項等の資料をパソコン・携帯電話からテレメール請求できます。

インターネットの場合
(携帯電話・パソコン)

<http://telemail.jp>

※携帯電話・パソコンとも共有アドレスです。(iモード・EZweb・Yahoo!ケータイ)
※スマートフォンでのアクセスも可能です。



メルマガ
配信中!

月2回配信(第2・4金曜日)

高知大学からメルマガジンを配信して
います。大学の「入試情報」から「あれこれ
(これは面白い)」まで!!
登録はこちら <http://daigakujc.jp/kochi-u>



●お問い合わせ先 皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。



高知大学
Kochi University

高知大学広報戦略室

高知大学

検索

<http://www.kochi-u.ac.jp/>

TEL.088-844-8643 FAX.088-844-8033

〒780-8520 高知市曙町2-5-1 E-mail:kh13@kochi-u.ac.jp

高知大学の最新情報を伝えたい THE こうち ユニバーシティ CLUB

FM 高知
81.6MHz

毎週日曜日放送中
(9:30～9:55)

高知大学のHPから過去放送分も視聴できます!

http://www.kochi-u.ac.jp/outline/kouhou/radio_fm_kochi/

高知大学の教育、研究、地域貢献等の
ホットな情報をお届けします。

スポンサー企業

高知銀行／相愛／ソフテック／アークエステート



発達障害児の
雇用に向けて

子どもたちが学ぶ

菓子工房 完成

2014年10月、高知大学のキャンパス内にある特別支援学校の一角に、小さなお菓子屋さんが生誕しました。「菓子工房 hocco sweets (ホッコスイーツ)」。お菓子を作っているのは、高等部に通う知的障害の子どもたちや卒業生です。



職業訓練の実践の場で 刺激を受ける

ホッコスイーツが作っているのは、伝統的なドイツの焼き菓子やロールケーキなど。ドイツ国家資格の製菓・製パンマイスターであるハインツ・エンゲルハートさん監修という本格派です。白を基調とした明るい店内には数席の客席が設けられ、販売のほかにカフェとしてドリンク類なども提供。開店とともに、子どもたちが作ったお菓子を求めて、近隣住民や高知大学の学生たちでにぎわいます。



ブルグンダーブレッツェルを作る生徒

ホッコスイーツがある教育学部附属特別支援学校は、知的障害の子どもたちのための施設。小・中・高校に準ずる教育を行うとともに、その障害を補うために必要な知識や技能を授けます。

「ホッコスイーツは、高等部の生徒が職業訓練を行う場です。高知大学と高知県の連携による『高知発達障害研究プロジェクト』と当校が共同で設立しました。プロジェクト側が目的とするのは、雇用モデルの創出や指導方法の確立。一方、教育現場である当校としては、雇用に向けた作業学習の場として、食品加工の分野で菓子製造について学べる環境を整備することを目的としています」と、特別支援学校副校長の山崎敏秀さんは話します。

特別支援学校では従来から雇用や仕事に必要な技術を学ぶため、作業学習が授業の一環として行われてきました。作業学習には食品加工のほか、木工や印刷、農作業などがあります。



「ホッコスイーツができて、これまでの作業学習と変わったことは、自分を作ったものを目の前で買ってもらえたり、食べてもらえたりする、ということ。しかも、『おいしい!』と評価してもらえ。こうしたことが子どもたちの大きな刺激になって、よりよいものを作ろうと意識が変わります」

「当校に通う子どもたちの多くが持っている特徴として、非常に几帳面な点が挙げられます。ドイツ菓子は、作り方がきっちりとして定められたもので、子どもたちに向いているのではないかとこのことで選びました。菓子は基本的に週2回の作業日に製造します。衛生管理と品質維持に最も気を使いますが、日本とドイツでは気候が違っているからか、時にはうまくいかないことも。まだ改善すべきことはいろいろあります」

障害の特性に適した 指導法を研究中

ホッコスイーツの大きな特徴は、県内でも珍しいドイツ菓子の専門店であることです。



プロのパン屋や洋菓子店でも使われているオープン



教育学部
附属特別支援学校 副校長

やま さとし ひで

山崎 敏秀

「ホッコスイーツができてしばらくは、小学部に通う子どもたちが興味津々に作業場のガラス窓に並んで、じっと見つめていたんです。かわいかったですよ」



障害児雇用の ビジネスモデルに

ホッコスイーツは、高知発達障害研究プロジェクトと高知大学教育学部附属特別支援学校が共同で設立しました。

高知発達障害研究プロジェクトは、高知県と高知大学が連携し、2008年度に立ちあげました。以来、発達障害の基礎研究や、支援計画、発達障害に関わる専門家の育成などの研究を行っています。プロジェクトでは11年度、高知県の発達障害者の雇用モデルの確立」という目標を掲げました。その具体的な試みがホッコスイーツで、発達障害者の雇用と、そこに向けた職業教育を一括で開発しようという狙いがあります。

近年、障害者は就職難の状況が進んでいます。しかも、障害者が一般企業に就職した場合、働く能力があるにも関わらず3年以内に辞めていく傾向が全国的にあります。いかに長く、継続的に就労ができるかが大きな課題です。もうひとつの課題は、きちんと収益を上げられることです。そのためには品質の良いもの、付加価値のあるものを作り、高い収益を確保しなければなりません。

高知発達障害研究プロジェクト



教育研究部 人文社会科学系
教育学部 教授

寺田 信一

東北大学博士課程後期課程。1993年(単位取得満期退学)。2001年博士(教育学)。2002年、高知大学に着任。専門は発達臨床心理学。「障害者のライフステージをいかに良くするか、これからは研究していかなければならないテーマだと思っています」

菓子工房 hocco sweets

ドイツ国家資格、製菓・製パンマイスター直伝の
ドイツ菓子をめしあがれ。



hocco sweets : ホッコスイーツ

高知市曙町2丁目5-3
高知大学教育学部附属特別支援学校
TEL. 088-888-8032

営業時間 am10:00~pm3:00
火・水・木・金(月・土・日は定休)

他にもパイやプリンもあります。
店内でもお召し上がりいただけますので、ご来店ください。



パニラキップフェル
¥390(18個)
¥150(6個)



幸福のバイブルグンダーブレッツェル
(ブルグンダーブレッツェル)
¥150(1個)



白黒クッキー
(シュヴァルツヴァイス)
¥180(4枚)



ロールケーキ
¥200(1個)

高知大学発ベンチャー認定制度

大学の知財を活かし、地域経済貢献を目指す。

支援が始まっています。国全体で大学発ベンチャーへの期待が高まっているいま、高知大学も学内にたくさんある優れたシーズ（事業化・製品化の可能性がある技術やノウハウ、種子の意）を社会に還元する仕組みをつくりたい。その一環として、認定規則を制定しました」

認定を受けることで、企業にはさまざまなメリットが生じるといいます。

「高知大学の施設をレンタルのラボやオフィスとして使ったり、大学の住所で商業登記したりすることができ、また、研究設備などの利用も認めています。さらに、地元銀行の協力により、融資と出資が受けられる「こうぎん産学連携ファンド」（3億円）が創設されたことも認定企業にとって大きなメリットです。ベンチャーは創業から収益をあげるまで時間がかかる場合が多いので、資金繰りの強力な支援になると思っています」

認定制度が研究や社会貢献を活性化

認定の対象となる法人は、①大学で達成された研究成果や習得した技術などに基いて設立、②大学の教職員または学生を発明人とする特許を基に設立、③大学の教職員または学生が設立者となるか、設立に関与されるもので、大学における研究成果を普及し、その活用を促進すると大学が認めたもののいずれかに該当しなければなりません。

10月に認定を受けた「プラス・メッド」は医学部教授の研究を活かした起

知識や技術を地域に還元する仕組みづくりとして

新しい技術や高度な知識を活かし、新規事業に果敢に取り組みベンチャー企業。日本経済の新たな活力として期待されています。高知大学では、四国の国立大学としては初の、「大学発ベンチャー」を認定する規則、「高知大学発ベンチャー認定制度」を昨年3月に制定。10月には、3つの法人を認定しました。大学発ベンチャー企業への支援について、認定の窓口である地域連携推進センターの受田浩之センター長に話を聞きました。

「現在、国の成長戦略のひとつに起業の活性化があります。大学発ベンチャーの創出に対しても、文部科学省の



協力学長と認定を受けた企業の代表者たち

業。「うみ路」は大学院生によって設立されました。認定期間は3年。この間、会社の研究や業務で支援が受けられます。

すでに、これらの企業に続こうと、認定を目指す動きが起きているといえます。

「認定制度が、大学の研究活動や社会的な貢献を活性化する触媒になれば、と思います。また、この春から新たに立ち上げる地域協働学部が地域創成、雇用創出できる人材の育成を掲げていますが、そちらへの追い風にもなるでしょう。大学からの支援の形が明確になり、先行事例が成功していれば、学生にとっても安心感がある。学生のアントレプレナーシップ（起業家精神）をより高めることに波及すればいいと思います」

高知大学で生み出されるさまざまな知財を、ビジネスとしてカタチにする。広く社会に還元していくことは、地域の大学としての高知大学が担う役割のひとつ。大学発ベンチャーの支援によって、その可能性が大きく広がっています。



総合科学系
生命環境医学部門 教授
副学長
地域連携推進センター長
うけだ ひろき
受田 浩之

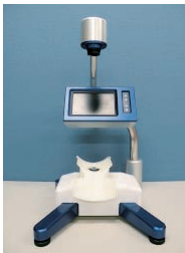
福岡県生まれ。九州大学農学部卒業、同大学院農学研究科修了、同大学院農学研究科博士課程中退。1991年、高知大学に着任。2006年より副学長兼務。「この認定制度で、地方の国立大学でもベンチャー企業を育て、成功させることができるんだということを証明したいですね！」

革新的な装置で医療現場において難しい動脈への針刺しを容易に。

起業した理由

現状の大学の制度では、産学連携も学術活動の範囲にとどまっており、企業と連携した市場調査や実用性向上のための研究、安全性試験、臨床試験、薬事などの事業化支援活動は、学術活動として評価されません。また、業務受託人件費として、企業に負担していただく制度もありませんでした。そこで、発明技術（特許）を活用した医療機器事業会社を立ち上げようと考えました。高知県から県内ものづくり企業の雇用につなげることを条件に資金援助を受けることもでき、高知県内に初の医療機器製造販売業（装置系）を興すことをミッションとして起業しました。

高知県産学官連携産業創出研究推進事業の成果



動脈可視化装置（試作機）
近赤外線と赤外線カメラにより
小型モニターに橈骨（とうこつ）と動脈
尺骨動脈が写し出されている。



株式会社プラス・メッド 代表者
高知大学 医学部
基礎医学部門 教授
さとう たかし
佐藤 隆幸



第2回こうちビジネスチャレンジ
基金事業での認定証授与式

株式会社 プラス・メッド

設立／平成26年8月1日
代表者／池 龍美・佐藤 隆幸

＜事業内容＞

- ・動脈可視化装置の開発、販売
- ・医療機器製造販売業
- ・医療機器受託開発業
- ・医学機器開発支援サービス

●認定を受けて良かった点は？
自身が発明した高知大学特許の
独占の実施権が許諾された点です。

●大変だった事がありましたか？
ベンチャー企業で利用する高知大学
特許の発明者と会社代表という
2つの立場を分離できない場面が
数多くありました。

●やりがいは何ですか？
会社を設立することにより
研究環境が良くなり
モチベーションが大幅に上がりました。

●今後の展望について
今春には、動脈可視化装置（写真）の
製造販売を開始したいです。3年後には
輸出することを目指しています。

大学で培った大型海藻種の研究を活かし海藻の陸上養殖の最先端を走る！

起業した理由

高知大学の海洋植物学の研究室に属し、室戸市との共同研究により海藻の生理・生態について、研究してきました。期間中、学生発のビジネスプランコンテストで全国優勝、文部科学大臣賞を受賞、アワビの殻色に関する特許出願などを実施しました。まだ、日本では沖縄の“海ぶどう”と、室戸の“アオノリ”の陸上養殖しか海藻の陸上養殖は行われていません。7年間の多品種にわたる海藻の陸上養殖の最先端の研究実績により、希少な海藻の種苗生産ノウハウを得ることができたので起業しました。



一般社団法人うみ路 代表者
高知大学
大学院総合人間自然科学研究科
黒潮圏総合科学専攻 博士課程3年
はちや じゅん
蜂谷 潤



陸上養殖した
アワビとアオノリ

一般社団法人 うみ路

設立／平成25年3月
代表者／蜂谷 潤

＜事業内容＞

- ・海洋深層水を利用したスジアオノリやアワビの陸上養殖
- ・種苗の生産及び販売
- ・水産物の生産、加工、輸入及び販売
- ・飲食店の経営

●認定を受けて良かった点は？
一般社団法人 高銀地域経済振興財団から
助成を受けれることです。

●大変だった事がありましたか？
資金を収入や支出のバランスを考えながら
やり繰りするのが大変です。

●やりがいは何ですか？
他では行われていない、最先端の事業を
行っていることや地域や室戸市をはじめとして
多くの団体からサポートを頂いていることです。

●今後の展望について
高い浄化能力をもつ海藻の探求
海藻種の培養技術の確立を行い
海洋環境を汚染せず、魚介類と海藻類の
複合的な養殖の仕組みを提案していきたいです。

高知の海から魚の新種を発見せよ！

「山王」の海王

魚類の分類学

教員 遠藤 広光先生 × 学生 中山 直英さん

— 遠藤先生は海洋生物学研究室で、日々、どのようなことを研究されているのでしょうか。

遠藤 高知の海を中心とした魚類の分類学、形態学などの研究を行っています。魚類分類学の研究者にとって、高知の沿岸、近海は非常に面白い海なんです。南西部などでは熱帯性と温帯性の両方の魚が見られ、種類がとても豊富です。一方、土佐湾には深海性の魚も多く、とてもバラエティに富んでいます。

— 中山さんは魚の研究をしたくて高知大学に入学したのだから。

中山 大学では魚の勉強をしようと思いついた、面白そうな魚は何だろうかと思いついた、やっぱ深海魚だなと。深海魚の研究をするなら高知大学が一番だということで入学しました。

— 高知大学が所有する標本の数は日本でも屈指だそうですね。

遠藤 以前からの積み重ねで、11万点くらいあるんですよ。全国の大学でも二番目か三番目に多いでしょうね。なかでもソコダラという深海魚のコレクションは種類も数も飛びぬけて多く、世界的に見ても充実しています。日本はもちろん海外の研究

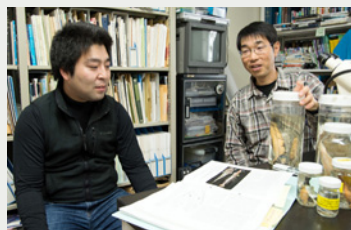
高知大学には戦前から引き継ぐ分類学の伝統があります

ソコダラ（ソコダラ）のネオタイプ（※標本も保管しています）



教育研究部 自然科学系 理学部門 教授
遠藤 広光
福岡県出身（千葉県 & 北海道育ち）。高知大学理学部卒業、北海道大学大学院水産学研究科博士課程修了。博士（水産学）。最近では土佐湾からニギス属（沖ウルメの仲間）の2新種を発表しました。意外なグループにも新種がいます。

高知大学の標本コレクションは日本屈指！



研究者になることを目指して、深海魚の研究に励んでいます

大学院 総合人間自然科学研究科
なかやま 直英 さん
長野県出身。高知大学理学部卒業。ソコダラの研究のため、世界各地に出かけて調査。調査船や海外での滞在が長いこともあり、博士課程は5年目に、「えい加減に卒業せえ」と漁師さんに叱られます。



者も見にきたり、貸し出し依頼があったりします。未整理の標本も多いので、毎週一回、研究室の学生が整理しています。

— 標本はどうやって集めるんですか？

遠藤 沿岸では手網や釣り、漁港で集めたり、毎年夏には3日間、沖の島でスクーバ潜水と釣りです。また、海洋研究開発機構（JAMSTEC）や水産研究所の調査船に乗って深海魚を採ることもあります。底曳き網漁をしている高知市の御豊瀬漁港にもよく行きます。中山君は漁業者と仲がいいんですよ。

中山 漁師さんと仲良くしていたら「面白いものが採れたぞ」と、普段は見かけない珍しい魚を持ち帰ってくれます。何回か船にも乗せてもらい、漁獲物の仕分けを手伝いながら新種や貴重な標本を採集できました。

— 分類する際のポイントは？

遠藤 グループによって分類の識別点は違いますが、基本的には体のプロポーション、ヒレの筋、骨、鱗、歯やトゲの数や形、体色や模様などが重

要です。電子顕微鏡やレントゲンで細部を観察したり、腹部を開けたりする場合もあり、とにかく体中をくまなく調べて論文にまとめます。名前がついてない場合もけっこうあるので、新種であれば学名をつけます。

— 今も新種の発見が続いているんですね。

遠藤 ぼくはこれまでに、沖の島で採集したクレナイトゲメギスなど16の新種を発表しました。自分で採集したものもありますし、未整理の標本を調べていて発見したこともあります。パッと見た時の第一印象が大事ですね。

中山 ぼくもシノハラヒゲというソコダラの新種などを発表しています。同じような魚を万単位で見ているので、「一見してあ、やばそう」とわかりました（笑）。

遠藤 高知の海も高知大学の標本コレクションも本当に素晴らしい、研究の材料は果てしなくあります。これからも高知の海から新種がどんどん発見されますよ。

人文学部で学べる大学は珍しい

「日本人なら誰でも、日本語を外国人に教えられるんじゃないの？」こう思っている人がいるようですが、とんでもない話です。日本語教育法の授業では、日本語教師になるにはどのような勉強が必要なのか、基礎となる部分を幅広く教えます。

こう話すのは高知大学に着任以来、19年間にわたって日本語教師の養成に取り組んでいる奥村訓代先生です。外国人に日本語を教える方法を学ぶ授業を開講し、毎年海外（異なる国）で教育実習を行っているところは国立大学の中でも極めて珍しく、しかも通常は教育学部のなかで専門教育として行われています。高知大学のように人文学部で学べる大学は、ほかに例がありません。

「ほかの大学では日本語教授法と呼んでいます、うちでは独自に日本語教育法と名付けています。外国人に教えるための日本語を学ぶだけではなく、もっと大きな意味合いで、外国人に対する教育の仕方そのものを学んでほしい、という思いを込めています」

授業を受ける学生は毎年、40名程度。例年、そのうちの10名ほどは外国人留学生で、帰国後、学んだことを活かして日本語教師になるケースも少なくないそうです。

難関の試験に合格 毎年、世界に羽ばたく

日本語教師とはどういう仕事か。日本語教師になるにはどうしたらいいのか。日本語教育法ではその全体像を学べますが、授業を受けたからといって、日本語教師になれるわけではありません。言語学や音声学、異文化理解、対照言語学などについても学び、年1回実施される「日本語教育能力検定試験」に合格する必要があります。この試験は非常に難しく、合格率はわずか17%なのですが、奥村先生の研究室からは毎年合格者を輩出。これまでに80人以上の日本語教師を送り出しています。

「日本語教師には2種類あります。1つは国内で外国人に教える教師、もう1つは外国で現地の人に教える教師です。うちのゼミではまず外国で経験を積ませることにしています」

JICA（国際協力機構）の派遣などにより、世界各地の大学で専任講師として学生に日本語を教えるとともに、自らもなお勉強。こうして経験を積み、レベルアップしてから帰国する人も多いそうです。卒業後、外国で教える人はみな、「毎日が未知との遭遇で楽しい。とてもやりがいがある」と言っているのだとか。世界に羽ばたく日本語教師。その夢に向けた第一歩となるのが、奥村先生が情熱を注ぐ日本語教育法の授業です。



先生に聞きました！

PROFILE

教育研究部 人文社会科学系 人文社会科学部門 教授

おく むら くに よ
奥村 訓代

滋賀県出身。京都外国語大学大学院英米語学研究科修士課程修了。修士（文学）。長崎大学教授を経て、高知大学で日本語教師を養成するために着任。「元々の専門は英語学。日本語学とはコインの裏表のようなもの。対日本人か、対外国人かという点が違います」

PICK UP LECTURE まなびの時間 高知大学の講義・研究

「日本語教師」とは何か？ その全体像を学ぶ



(上) 日本語教師として世界で活躍している卒業生MAP
(左) 奥村先生の著書





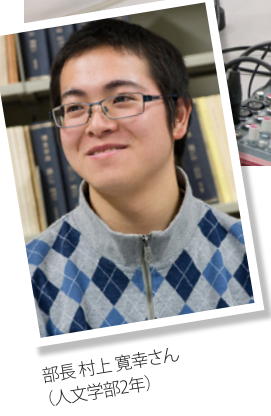
言葉のチカラをキャンパスに、地域に届けたい！

放送研究会 JAKKU



ラジオというメディアの可能性を広げたい

「それでは人文ラジオJAKKU、スタート！」
こんな掛け声とともに始まるラジオ番組「JAKKUラジオ」が、毎月1回「YouTube」にアップされています。制作しているのは、放送研究会JAKKU。人文学部の学生が集まる放送サークルです。番組の内容は、季節に合わせた話題から教員の紹介までさまざま。部員が集まってテーマを出し合い、話が膨らみその話を膨らませることができそうな人がMC(司会)を担当。テーマによってはゲストを招いたり、インタビューをしたりすることもありますが、部長の村上寛幸さん(人文学部2年)・番組はだいたい、3つのテーマで構成。ときには、ラジオでできるのーうといったテーマも飛び出します。副部長の中川明日加さん(人文学部2年)いわく「豆苗に話しかけるとかけないのでは、どちらがよく成長するのかという実験企



放送研究会 JAKKU(ジャック)
既存の放送研究会と、人文学部でネットラジオを制作していた学生グループJAKKUが合併し、2014年に誕生したサークル。部員数11名。「もっと部員を増やしたいです!いろいろな人に取材ができて、本当に楽しいですよ!」(中川さん)



ラジオCMコンテストの受賞が励みになりました!

こんな放送研究会JAKKUの悩みの種は、知名度の低さ。そこで知名度を上げようと、大学のラジオCMをテーマとする「JFN学生ラジオCMコンテスト2014」に応募。和根崎さんの作品が優秀賞に選ばれ、JFN

聞いてもらうために知ってもらう

画もやりました(笑)と言います。普通なら映像でやるのでは?、というような企画にもラジオで挑戦する同サークル。果敢な試みを続けるのは、声だけで発信することにこだわっているからとか。「ラジオは色々なところで聴けますし、何かしなくても聞ける間口の広いメディアです。そこに、大きな可能性を感じます」と部員の和根崎友梨子さん(人文学部2年)。ラジオというメディアの可能性を広げようと、番組作りに取り組んでいます。

系の全国ラジオ局で高知大のCMが放送されました。ラジオによる情報発信のほかに、サークルのメンバーは大学内のさまざまなイベントに司会として参加。マンドリンクラブや吹奏楽部の定期演奏会のほか、学祭・黒潮祭のイベントでも司会を務めました。また、高知市の「コミュニティ放送局」である高知シティエフエムラジオ放送に出演もしています。最近では、地域のお祭りでも司会をさせていただき、た。祭りを盛り上げる役ができたのはとてもうれしかったです。これから私たちができることがあれば、いろいろなイベントに積極的に参加したい」(村上さん)。



エコチル調査 7000組の参加者集まる!



未来の子どもたちのために、高知の親子の13年を追いかける



化学物質が子どもに与える影響は?

全国で10万組の親子を対象に、子どもの健康と環境に関する全国調査を行う「エコチル調査」。高知大学は全国15カ所の拠点のひとつに選ばれ、四国では唯一の拠点として2010年から大学内に高知ユニットセンターを立ち上げて調査を開始しています。
「子どもがかかるさまざまな病気の背景に、環境のなかにある化学物質の影響を及ぼしているかどうかを調べる調査。13年間という長期にわたって子どもと母親の健康の追跡調査を行います」と高知ユニットセンター長である菅沼成文先生は話します。このような規模での調査は、日本ではもちろん初めて。世界でも3番目となる試みとのこと。エコチル調査は、そのテーマも注目されています。
「近年、アトピー性皮膚炎やぜんそくな

新たな研究のプラットフォームに

高知県では7000組の親子を対象に調査が行われています。取り組みは2010年、参加者を募ることからスタートしました。県内11の市町村が募集地域。各地域の産婦人科などの医療機関に協力をおおき、妊娠中の女性に声かけをしてもらいました。高知県は、2014年3月に目標の7000組を達成。現在は、母親や赤ちゃんの健康状態の調査が進められています。
「環境因子と子どもの環境が今回の調査のメインテーマではありませんが、ここに集まるさまざまなデータは、小児科や産婦人科などの医学研究のプラットフォームになり得る情報です。医学部でもデータを使って新たな研究ができなにかと取り組んでいる学生がいますし、今後は教育学部などにもこの動きが広がるでしょう」
また、妊娠中の栄養や生活習慣、子どもの成長過程などさまざまな情報が集まるので、保健や教育行政など活かせる情報が提供でき、高知県にも貢献できる



エコチル調査 高知ユニットセンター長 教育研究 医学部 医学部門教授

菅沼 成文

長崎県生まれ。岡山大学大学院医学研究科(社会医学専攻公衆衛生学)修了。博士(医学)。2007年11月より高知大学医学部教授。10年4月より副学長(研究担当)を兼任。専門は環境医学。「エコチル調査の10万人という規模は、日本で起きているさまざまな現象を切り取って顕微鏡で眺めるようなもの。この顕微鏡の窓をしっかりとぞきこむことで、いまの日本が把握できます」

これから進められるのは、参加者のうちの344人を対象に、生活環境などを現地調査する詳細調査。現在は、参加者の勧誘が行われています。
「エコチル調査は、市町村や医療機関など多くの方々の協力によって進められています。そしてこの調査の成功は、何よりも13年間という長い期間、調査に参加してくださる7000組の家族の協力あってこそ。これからもよろしくお願いします」

詳細調査も開始

「検査結果は極力伝えることにして、少しでも参加者の役に立てればと考えています。また、年数回は調査参加家族を招待して、交流イベントも開催しています。これは子育て支援にもつながっていると思います」
「調査結果は極力伝えることにして、少しでも参加者の役に立てればと考えています。また、年数回は調査参加家族を招待して、交流イベントも開催しています。これは子育て支援にもつながっていると思います」



年に数回交流イベントも開催



大学改革シンポジウム2014 「地域協働で未来を切り開く」を開催

新しい大学教育と
地域の未来を考える

平成27年4月に開設する新学部「地域協働学部」のキックオフシンポジウムとして「地域協働で未来を切り開く」を11月8日、高知市で開催し、高校生ら250人が参加しました。

シンポジウムでは、2011年に東京から高知に移住した黒笹幾氏（南国生活技術研究所代表）による基調講演の後、辻田宏副学長が地域協働の果たす役割や



▲黒笹氏による講演

その意義について報告を行いました。パネル討議では、佐川町の堀見和道町長や土佐経済同友会代表幹事の吉澤文治郎氏、高知大学のフィールドワークの実習を受けて、地域と大学が一体となった新しい教育の可能性や課題を語り合いました。

海洋コア総合研究センター新保管庫棟竣工 試料保管拠点として更なる機能強化へ

海洋コア総合研究センターは、海洋コアの冷蔵・保管を始めとして、コア試料を用いた基礎解析から応用研究までを一貫して行える国内唯一の研究施設です。センターには奥行き40m、面積1600㎡の巨大な冷蔵保管庫に総延長96km、13万本にも及ぶコアを保管していますが、残収容量がわずかとなっていたため、新たに20万本のコアを保管できる新保管庫棟を建設し、この度竣工しました。

これにより、国際深海掘削科学計画(IODP)により掘削されたコア試料の収容能力は、これまでの2.2倍となり、世界3大コア試料保管拠点(日本・米国・ドイツ)としての機能強化が図られました。

10月17日には、竣工記念式典が執り行われ、文部科学省をはじめ関係機関の来賓の方から祝辞が述べられ、今後の活用と成果について期待が寄せられました。



▲新保管庫内部

◀海洋コア総合研究センター新保管庫棟

南海地震に備えるシンポジウムを開催

地域に必要とされる防災を学ぶ

第39回高知大学アカデミアセミナーとして南海地震に備えるシンポジウムⅣ「命をつなぐために備えよう!!」を10月4日、高知市で開催しました。

シンポジウムでは、福島大学の天野和彦特任准教授から、東日本大震災における福島の大規模避難所での取り組みを通して見えてきた教訓を中心に、いま地域の中で何が求められているのかについて講演が行われた後、本学の岡村眞特任教授から南海地震への備えについて講演が行われました。

また、本学の大槻知史准教授からは、毎日の暮らしの中で無理なく楽しく防災に取り組む方法について紹介が行われました。大学パネル討議では、各講師の他、NPO、自主防災組織及び学生の防災リーダーの方々と交えて、市民レベルでどのような対策が必要なのか、地域や学校でどのような取り組みを行う必要があるのかについて討論が行われました。



武道館を耐震改修し新装

地域の武道教育の拠点として

朝倉キャンパスの武道館は、建築後46年が経過して老朽化が進み、また、耐震性能を向上させる必要があるため耐震新装改修を行いました。新武道館は、道場フロア一面を拡張し、男女それぞれの更衣室・トイレ・シャワー室が整備され、格段に利便性が高まりました。今後、地域の武道教育・研究の拠点として、より発展的な活用が期待されています。10月29日には、学内外から来賓を招き、新武道館のお披露目式を開催して竣工を祝いました。



▲武道館内部

武道館お披露目式▶

90km先の ゴールを目指す

第54回室戸貫歩を開催

高知大学空手道部主催「室戸貫歩」を11月22日・23日に開催しました。

昭和36年に空手道部員が心身鍛錬のため、体力と精神力の限界に挑戦するという目的で始めたこの行事、高知市の朝倉キャンパスから室戸岬までの約90kmの道のりを夜通し歩き、30時間以内でのゴールを目指します。十数年前から一般参加も可能になり高知大学の伝統行事となっています。



受賞者紹介

平成26年9月～11月までの教職員が受賞したものをご紹介させていただきます。

- | | |
|------------------------------|---|
| 農学部
安武 大輔 准教授 | 「植物生産における熱・物質輸送プロセスの動態評価と最適化」
日本生物環境工学会 生物環境システム科学賞 |
| 理学部
宇田 幸司 講師 | 「ISOLATION AND CHARACTERIZATION OF THE AMINO ACID RACEMASE GENES FROM SEVERAL INVERTEBRATE SPECIES」
第2回D-アミノ酸国際学会 ベストポスター賞 |
| 総合研究センター
臼井 朗 教授 | 「深海底鉱物資源の研究・開発分野における国際的な貢献」
International Marine Minerals Society Moore Medal (IMMS, 国際海底鉱物協会) |
| 保健管理センター
渋谷 恵子 准教授 | 「自傷を繰り返す女性の箱庭療法過程—枯れ木と十字架の象徴性—」
「選択性嫉妬の少年の箱庭療法過程—火の鳥と竜の結婚—」
日本箱庭療法学会 河合肇雄賞 |

- | | |
|---|---|
| 人文社会科学部
後藤 拓也 准教授 | 「アグリビジネスの地理学」(古今書院 2013年)
人文地理学会 第14回人文地理学会賞(学術図書部門) |
| 黒潮圏科学部
田口 尚弘 准教授 | 「Detection of characteristic heterochromatin distribution, highly amplified rRNA genes and presence of the human satellite III DNA motif in the scleractinian coral Echinophyllia aspera Ellis and Solander 1788」
染色体学会 染色体学会論文賞 |
| 大学院総合人間自然科学研究科
理学専攻1年 今井 悟 さん・ 奈良 正和 准教授 | 「中新統三崎層群竜串層にみられる浅海性津波堆積物とその堆積過程」
日本地質学会第121年学術大会 優秀ポスター賞 |

「物部キャンパス一日公開」を開催

毎年恒例のイベント、今回も大盛況!

物部キャンパスにおいて11月3日、地域の皆さんにキャンパスを開放して紹介する「物部キャンパス一日公開」を開催しました。

この「物部キャンパス一日公開」は、広大な物部キャンパスにある農学部、大学院総合人間自然科学研究科黒潮圏総合科学専攻、総合研究センター(遺伝子実験施設)及び海洋コア総合研究センター等の教育研究施設の活動を地域の皆さんにより深く理解してもらうため毎年開催しています。

開催当日は、教職員、学部生、大学院生、留学生らが一体となり、日ごろの教育研究活動を理解してもらうと同時に楽しんでもらえるように講義、実験、体験コーナーなど様々な趣向を凝らした企画を実施しました。

今回は天候にも恵まれ、家族連れを中心に4,000名に上る地域の皆さんにご来場いただき、各企画を存分に楽しんでいただきました。



目指せ室戸岬!!

54回目となる今回は、421名が参加して、283名が完歩、もともと早くゴールした方は、同日午後6時48分に室戸岬に到着しました。今回も沿道やゴール地点では、深夜にもかかわらず温かい豚汁、おでん、おにぎり、室戸海洋深層水などのサービスを地元の方から受けるなど、温かいご支援のもと実施することができました。